

平成24年内に観察したきのこたち

山川 続

(1) ハマクサギタマゴタケ (村上仮称) (テングタケ科テングタケ属)

観察日：平成24年9月29日

場所：小ヶ倉水源地 (長崎市上戸町4丁目)

大型の白いテングタケ属のきのこです。今までに、長与町中尾城公園(20040927)、大村公園(20050910)、長崎市小ヶ倉水源地(20080907)、佐賀県神埼市日の隈山(20120707)でも同じものを観察しました。

しかし、これらがハマクサギタマゴタケと確信できませんでした。その理由は、ハマクサギタマゴタケの特徴として、名前的一部分にあるように、樹木のハマクサギの独特の臭いがあると記載されていたからです。今までに観察したこれらのきのこからは、ハマクサギの臭いにおいがしなかったです。ハマクサギは、身近な山林でよく見かけられ、私は何度もおいをかいているので、その臭さはよく覚えています。しかし、ミヤマタマゴタケにしては、傘の色が白っぽいなどずっと不思議に思っていました。

ところが、今年、長崎市小ヶ倉水源地で採集したきのこ(写真)から、さわやかな香りがしたので、再度、資料を調べて、ハマクサギタマゴタケの特徴を確認すると、どうも今まで観察されたものはハマクサギタマゴタケだろうと思いました。そこで、10月6日～7日に雲仙で開催された西日本キノコ交流会に参加されていた河野洋輔先生(熊本きのこ会顧問)にお尋ねしたところ、つばとつばが二重になっているので、ハマクサギタマゴタケだろうと教えていただきました。ミヤマタマゴタケは一重だそうです。「きのこ通信010」(幸徳伸也、兵庫きのこ研究会)には、「ハマクサギタマゴタケは正式な名前ではないので、表記の仕方は『ハマクサギタマゴタケ (村上仮称) Amanita sp.』とするのが望ましい。九州のほか、中国、関西などで発見されています。そのため仮称ながら広まりつつある名前です。」と記載されています。佐藤 仁さん(長崎きのこ会会員)によれば、長崎市内の住吉神社、浦上水源地、岩屋山、泉町公園などでも見つけているということなので、タイミングさえ合えば、各地で普通に見られるキノコになっているようです。



かなり大型。全体が白く、中央部がやや濃くなったアイボリー色で、条線がよく目立つ。



破れて見にくいですが、二重のつばの名残が残っている。



白色で大型膜質のつぼの中に小さい膜がある二重構造になっている。